

まぶしいほどの光

(原文)

塚本 光 (11 歳)

千葉県

八千代市立大和田小学校

私には、生まれて来た時の記憶があります。周りはまぶしいほどにキラキラしていました。そのキラキラは、これから生まれる命や、宇宙の星、星の中に生きている命のかがやきでした。その時私は、別の命とお話をしていました。別の命がだれだったのかは、覚えていません。私達は、命同士が使う言葉で話していました。日本語にするのは難しいけど、言うならば、「君はどんな命として生まれてくるんだい？」と聞かれ、私はどんな存在として、どう生きたいのかを答えました。

私は自分が幸せになるために生まれて来ました。家族が楽しく生きる事も、私の幸せの一つです。そして、家族にいろいろな事を伝えたいという目的もあります。みんなそれぞれ大切な目的を持って生まれてきます。その目的は、人から見てすごいとか、すばらしいと言われるような事とは限りません。

私は、1年生の時、朝顔を育てました。朝顔ともお話ができるかなと思い、いつも話しかけていました。朝顔はいつも、「ありがとう」と、幸せそうに言っている気がしました。

私の朝顔は、きれいに花がさき、たくさん実ができた後にかれてしまいました。けれども朝顔はかれていく時、幸せそうに笑っていました。だから私は、朝顔にとったら十分満足だったのではないかなと思いました。

3年生では夏野菜を育てました。私が育てたナスは、花はさいたけれど実ができずに終わってしまいました。本葉が2枚出ただけで、小さいうちにかれてしまっていて泣いていた子もいました。だけど野菜は、自分がと中でかれてしまった事に文句を言っているようには思えませんでした。

例えば芽が出なかった植物は、みんなから見たらと中で終わってしまったように思うかもしれません。だけどその植物は、種になる事ができた命なんだと私は思います。朝顔や野菜たちそれぞれの生きる目的が何かは私には分かりません。けれど、どんなに小さくても、生きる期間が短くても、みんな自分の目的を果たしたのではないかなと思います。

人間はつい、命の価値にちがいがあると思いこんでしまうところがあると思います。私も人と比べて自分の方ができていない時や失敗をした時に、自分がダメで、できている子はすごいと思ってしまふことがあります。周りにも、自分なんてと落ち込んでいる人や、逆に人をばかにして笑う子もいます。でも本当は命の価値が変わるなんて事はないんだと思います。その事を忘れてしまった時は、「みんな生きているだけですばらしい命なんだよ」と、自分にもみんなにも、くり返し伝えてあげたいです。

人間や植物だけでなく、動物や大地、海や川などの全ての命も、みんな同じ価値なんだと思います。だれかだけが有利だったり、人間だけが得をすることをつい考えてしまうけど、みんなで気をつけ合っ
て、あらゆる生命が共に暮らせる世界を作れたらいいなと思います。その事をみんなが考える事が
できたら、私が生まれて来る時に見たキラキラを、みんながこの世界でも見られるようになるのでは
ないかと思います。私はきっとできると信じています。だって、もともとみんな、まぶしいほどの光を
放っているのだから。